発行月：令和 4年 8月　家族新聞　第791号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

松永怜一さん死去

ロス五輪 野球金メダル監督

1984年ロサンゼルス五輪の公開競技だった野球で日本代表を監督として金メダルに導いた松永怜一（まつなが・れいいち）さんが12日、老衰のため死去した。90歳。北九州市出身。後日、家族葬を行う。

福岡・八幡高、法政大で内野手としてプレー。法政二高（現法政高）、堀越高（ともに東京）の監督を経て65年から法政大監督を務めた。東京六大学リーグを6度制し、プロ野球で強打者として活躍した山本浩二さん、田淵幸一さんらを育てた。

71年から住友金属を率い、日本選手権で優勝2度。アマチュア球界での要職のほか、日本オリンピック委員会（JOC）選手強化本部長などを歴任した。2007年に野球殿堂入りした。

1984年ロサンゼルス五輪公開競技の野球で米国を破り優勝、胴上げされる日本チーム監督の松永怜一さん＝UPI・共同

信念の人 名選手を発掘

評伝

12日に亡くなった松永怜一さんは、多くの無名選手を育て上げたまれな指導者だった。象徴的なのは法政大監督時代で、1960年代半ばに東京六大学リーグ史に残る強力チームをつくり上げた。打の田淵幸一さん、富田勝さん、山本浩二さんに、投の山中正竹さん。いずれも高校時代に甲子園出場はなかったが、田淵さんは22本塁打、山中さんは48勝で、ともに通算記録を更新した。

「奇跡の抜てき」といわれたのが山本さんだ。当初は合宿にも入れない「その他大勢組」で球拾いをしていた。打力に目を付けて投手から転向させ、プロ野球広島で超一流となったのは周知の通りである。甲子園組は多かったが「グラウンドでの姿が全て。どんな経験があろうともだ」と自分の目で見て発掘し、育てて送り出すことが生きがいだった。

采配は勝負師だった。ロサンゼルス五輪決勝で、後に大リーグ本塁打王になるマーク・マグワイアさんらがいた米国を破った。適材適所の選手起用、スモールベースボールの妙が決め手となり「ミラクル日本」と評価された。

公開競技のため待遇は正式競技と比べて厳しく、社会人と大学の混成で、合同練習は現地入りしてから。投手陣を整備し、継投策で乗り切った。不振だった主軸打者の広沢克実さんは即席指導を受け、決勝で広いドジャースタジアムの外野席に放り込んだ。

信念ゆえに口うるさく、従わない者を外す強さ、怖さもあった。たとえ4年生でも合宿から追いやった。球界で成功した教え子、栄光を見ると、恵まれた理想のアマチュア監督といえた。

（元共同通信編集委員 菅谷斉）

2016/07/01

2016/07/01

私には2人の「師」がおります。
一人は中学校の先生（久保先生）二人目は野球殿堂入りした松永怜一先生
監督としては高校・大学・アマチュア監督としては最高です。
本当に人生も含めて教えてもらいました。